MV-R, MV-F
取扱説明書

特　徴

・IF折畳機構(PAT.)を採用しています
・スタンダードなフレーム寸法と乗車ポジションを併せ持っています
・工具を使用しなくても、部品を取外さなくても簡単に折畳むことが出来ます
・20インチホイル使用にも関わらず、16インチホイル車なみの大きさに折畳めます
・専用キャリアを使わなくても、転がして持ち運ぶことが出来ます
・普通のツーリング車と同じ24〜26インチのギアレシオです
・快適な乗心地の前後サスペンション付です
・素早い加速と停止に対応する小径ホイルを採用しています
・エアロダイナミクスな前面形状をしています
・堅牢なフレームとスウイングアームは高いパワー効果を発揮します
・小さく折畳めて、移動や収納に大変便利です

ご使用にあたり、特にご注意頂く点

赤丸で囲む折畳み部分には、決して手や指を入れないで下さい（図1〜2）
ロッドレバー操作の時にはヘッドチューブやダウンチューブに指を挟まない様にお気をつけ下さい（図3〜4）

図1

図2

図2

図4

組立の手順

ステップ 1：カートンを開けて下さい。中には
(1)99%組立の自転車本体
(2)サドルとシートポスト
(3)ペダル
が入っています(図5)

図5

ステップ 2：

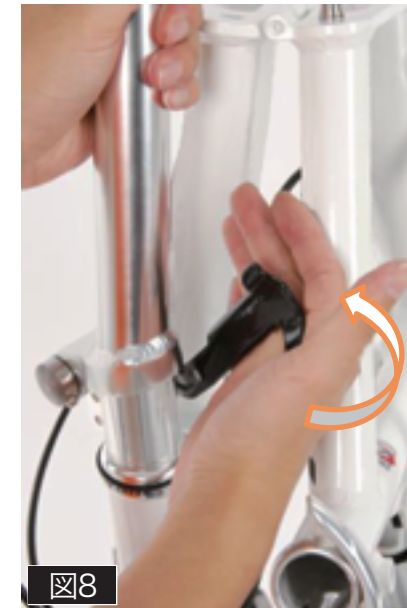
1）フレームのヒンジ部を持上げ両輪を接地させます。この時、ハンドルステムのヒンジが手前に来る様にして下さい（図6）

2）ステムロックレバーを下方に押し下げて、ハンドルステムを起こしてください。途中で止まる時には、再度ステムロックレバーを下げて、ステムヒンジが底当たりするまでハンドルステムを起こして下さい（図7）

3）ステムロックレバーをハンドルステムに向かって回転させて、ステムに並行になる位置まで移動させ、ステムを確実に固定して下さい（図8）

図6

図7

図8

注意：ステムのヒンジが正しい位置に確実に固定されているか、再度ご確認下さい

ステップ 3：
右手でシートチューブ近くのトップチューブを持ち、左手でハンドルの左グリップを持ちます。
先ず、左手のハンドルを反時計回りに少し動かして、両車軸先端にあるマグネット板を離反させます（図9）
続いて、左手を少し前方に押出しながら、右手は体から離れて時計回りに後方へ移動させます（図10～11）

図9

図10

図11

ステップ 3（続き）：
右手の手のひらでトップチューブを押し、シートチューブを所定の位置に移動させて下さい(図12)
フレームロックレバーを前方に向けて回し、同時にフレームに異常が無いか確かめながら前方のコネクターに落し込んで下さい。続けて、クイックレリーズ式クランプのレバーをクローズ位置まで締めこんで、ロックレバーを正しい位置に固定して下さい(図13)

図12

図13

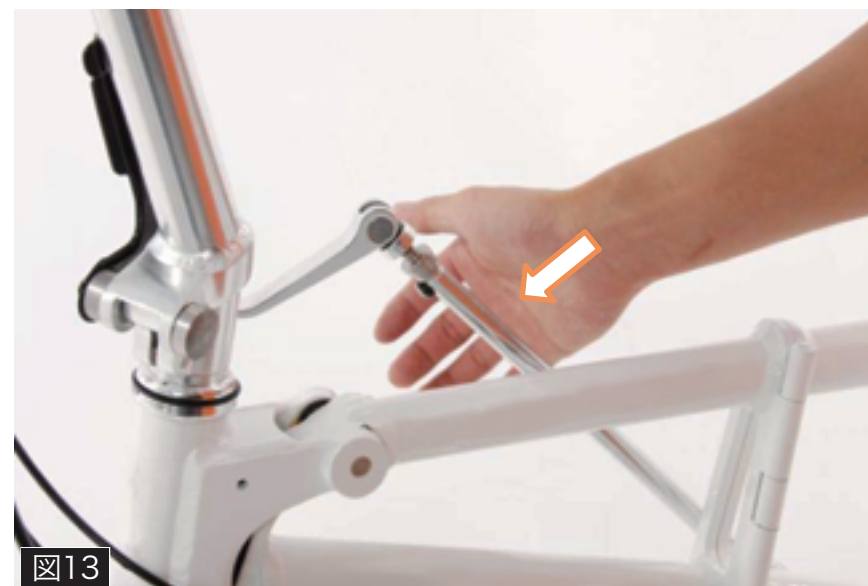
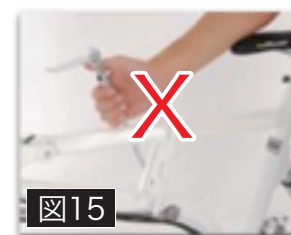
図14

注意：
手を折畳部分に近付けないで下さい（図14）

図15

注意：
ロッドを握って回すと、指を挟む恐れがあるので止めて下さい（図15）

ステップ 4：
シートポストをシートチューブに差込んで、シートクランプのクイッ
クレリーズレバーをクローズにして一時固定して下さい(図16)
続けてサドルをシートポストに取付けて下さい(図17)
次に、必要高さにシートポスト位置を調整し、クイックレリーズレ
バーをクローズにして下さい。

図16
図17

ステップ 5：
右ペダルは時計回り、左ペダルは反時
計回りにねじ込んで、強固に取付けて下
さい(図18)

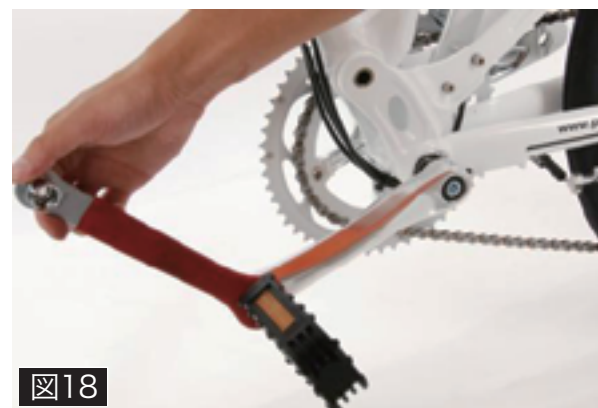



図18

注意：サドルはシートポストに表示してある限界マークを超えない範囲で高さ調整してください

折畳み方法1

図19

先ずペダル外側を車体側に向けて押付けながら上向きに回して小さく折畳みます(図19)

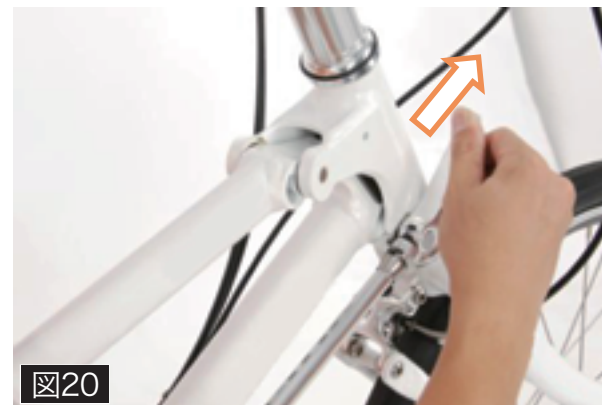



図20

自転車の左側に立って、クイックレリーズ式のロックレバーをオープンにします(図20)

図21

手を広げて、指先でロックレバーを上方に引上げます(図21)

注意:ロックレバーは握ったまま引上げると
指を挟みますので危険です。お止め下さい

図22

続いて、ロックレバーを自転車後方に向けて回転させ、ロックシステムを解除します(図22)

折畳み方法2

（図23）

図23

左手でハンドルバーの左グリップを持ち、右手でサドルを持ちます。次に左手側を自分の方に引くか、右手側を押出すかすれば、所定の折畳み位置にまでフレームのヒンジは開くようになります（図23）

図24

車体の前部を上方に持上げ、サドルを体の右側に押し当てて固定しながら、車軸の先端にあるマグネット板同士が合体するまで、車体前部を後方に引き寄せます
（図24～26）

図25

図26

折畳み方法3

図27

自転車をよりコンパクトに収納するため、シートポストのクイックレリーズレバーを操作して、シートポストをフレームに押込みます(図27)

図28

ハンドルステムのステムロックレバーを解除して、ハンドルバーを横に折畳みます(図28)

ハンドルバーが動かないようにステムロックレバーを後方に戻します(図29)

図29

折畳んだ状態での移動と置き方

図30

フレームヒンジは自転車
を転がして運ぶ時の取っ
手になります
(図30〜32)

図31

図32

サドルを持って、自転車
を転がして運べます
(図33)

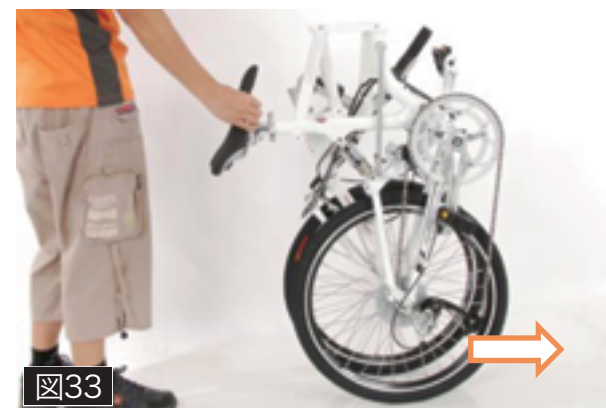
図33

地面に置くときは、車体を
逆さにすることにより前後
輪とサドルの3点で接地で
きます(図34)

図34